

1 研究主題

思いや考えを表現し、深めていく児童の育成 ～ICT 機器(タブレット端末)の活用を通して～

2 主題設定の理由

21世紀の社会は、新しい知識・情報・技術があらゆる領域で重要性を増す、「知識基盤社会」と言われおり、私たちの生活の中でも、あらゆる分野で ICT 機器が活用され、生活を便利にしてくれている。

中央区では、令和3年度4月から区内全小・中学校で1人1台のタブレット端末が配布された。校内には Wi-Fi 環境が整備され、教室にはマグネットスクリーンの設置により、画像や動画を大画面で見ることができるようになった。また、校内では ICT 支援員が配置され、機器の不具合の対応だけではなく、授業で効果的に活用できるよう授業支援等も行ってもらっている。

この数年は感染症予防のため、「児童が主体となって活動したり、活躍する場面が少なかった」ことや「学び合う活動が減り、表現したり深めたりすることに限界があった」との児童の実態がある。そこで本校では ICT 教育「思いや考えを表現し、深めていく児童の育成～ICT 機器 (タブレット端末) の活用を通して～」という研究主題のもと、様々な教科で実践授業に取り組む研究の2年目とする。

昨年度の研究の成果は、教員から「様々な教科での提案だったので、幅広く活用方法を知ることができた。」「児童相互の学びが広がった」などが挙げられた。また、反省としては、「情報モラルの徹底と学習スキル双方向の向上を目指したい。」「さらに学び合いを深めたい」との意見があった。

今年度も ICT 校内研修や、教員間で情報共有をしながら、研究主題に迫るために「思いや考えを表現するための工夫」「思いや考えを深めていくための工夫」を視点として授業づくりに取り組んだ。ICT 機器 (タブレット端末) を活用し、「思いや考えを表現する」「思いや考えを深める」ことのできる児童の育成を目指したい。

3 研究組織

研究組織は以下のようにし、専科は各分科会に分かれて研究を行うこととした。尚、目指す児童像も低・中・高学年で設定した。

| 分科会 | 低学年 (1, 2年・専科) | 中学年 (3, 4年・専科) | 高学年 (5, 6年・専科) |
|-----|-------------------|-------------------|-------------------|
|-----|-------------------|-------------------|-------------------|

4 目指す児童像

低学年、中学年、高学年ごとに分科会を組織し、目指す児童像を決めた。様々な教科で研究授業を行うこととした。

| | 思いや考えを表現する | 思いや考えを深める |
|-----|-------------------------|----------------------------|
| 低学年 | 自分の思いや考えをもち、表現する子 | 友達の思いや考えに興味をもち、よいところを見つける子 |
| 中学年 | 自分の思いや考えをもち、進んで表現する子 | 友達の思いや考えと比較しながら学ぶ子 |
| 高学年 | 自分の思いや考えをもち、分かりやすく表現する子 | 友達の思いや考えを活用し、自分の考えを深める子 |

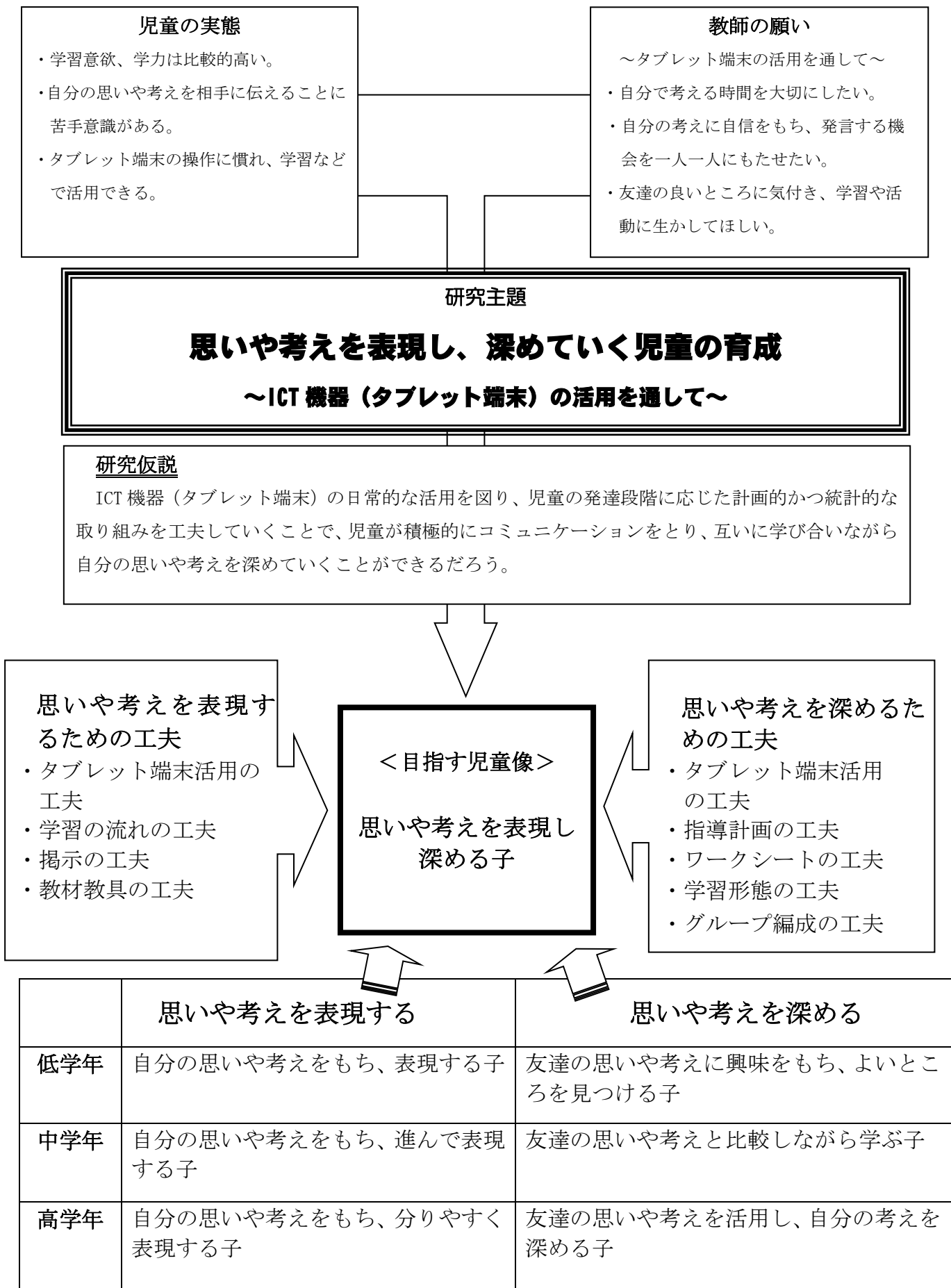
5 研究の仮説

ICT 機器（タブレット端末）の日常的な活用を図り、児童の発達段階に応じた計画的かつ統計的な取り組みを工夫していくことで、児童が積極的にコミュニケーションをとり、互いに学び合いながら自分の思いや考えを深めていくことができるだろう。

6 研究の視点

| <思いや考えを表現するための工夫> | <思いや考えを深めるための工夫> |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none">・タブレット端末活用の工夫・学習の流れの工夫・掲示の工夫・教材教具の工夫 | <ul style="list-style-type: none">・タブレット端末活用の工夫・指導計画の工夫・ワークシートの工夫・学習形態の工夫・グループ編成の工夫 |

7 研究構想図



8 研究経過

| 日 時 | 内 容 |
|-----------|---|
| 6月16日(木) | 研究授業① 授業者：3年1組 教科・単元名 国語科「山小屋で三日間すごすなら」 |
| 9月29日(木) | 研究授業② 授業者：4年3組 教科・単元名 体育科「テーパーボール(ベースボール型ゲーム)」 |
| 10月20日(木) | 研究授業③ 授業者：2年4組 教科・単元名 算数科「かけ算」 |
| 11月 7日(月) | 研究授業④ 授業者：6年2組 教科・単元名 道徳科「公正・公平な心」 |
| 12月 8日(木) | 研究授業⑤ 授業者：5年2組 教科・単元名 社会科「森林と共に生きる」 |
| 1月19日(木) | 研究授業⑥ 授業者：1年3組 教科・単元名 算数科「おおきいかず」 |

8 全体の成果と課題

成果

- ワークシートやプリントを用いた学習の場合、思考をやり直す際に消しゴムが必要になる。タブレットを用いると、何度も繰り返しやり直すことが容易になる。
- 発表原稿の理由を長い文章を書く場合、訂正や推敲が容易になる。文章を書くのが苦手な児童も、取り組む際のハードルが下がる。
- 発表ノートの色分け機能を用いると、全体で確認する際に誰がどの立場かを容易に確認できるため、共有がしやすくなり誤解も生じにくくなる。
- OZOOM や MEET を用いることで、遠く離れた場所との交信が容易になり、インタビューなど生きた学習が計画しやすい。
- 動画機能を用いることで、動作の振り返りが瞬時に行えるため、日にちや時間をまたがずに、すぐに話し合いを行うことができる。
- 校内の共通した機器を用いているため、接続の仕方や知らなかった機能などを研究が進む中で学ぶことができ、教員の操作能力が向上した。

課題

- アプリなどの操作に慣れている状態であれば、活用が簡単であるが、初めてのアプリやファイルなどの場合、慣れるまでに時間を要する。
- 前年度に引き続き、情報モラル教育に課題を感じる。特に、機能によってはどこまでも可とし、どこまでを不可とするかの線引きが難しい。
- OZOOM や MEET などを用いる場合、回線が切れた時にどのように対応するのかをあらかじめ想定しておく必要がある。
- 情報機器の研究を行う場合、起こりがちなことだが、情報機器を活用することにとらわれてしまい、学習活動やその目的が後回しになってしまうことがある。